

1. 実況上の着目点

- ① 東日本付近に中心を持つ高気圧があって、東南東に移動。日本付近は高気圧に覆われ、広く晴れている。
- ② 東海道沖から日本の南にかけて、地上のシアーラインがのびており、周辺では雷を検知し局地的に1時間に20mmの強い雨を解析。また、豊後水道付近～南西諸島～東シナ海は気圧の谷となっており、周辺では1時間に5～15mmの降水を解析。さらに、東北日本海側の海上では、下層暖湿気の流入で1時間に5mm前後の降水を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は20日にかけて、日本の東から日本のはるか東へ移動する。西～北日本には高気圧後面の暖かい空気が流入し、850hPa0℃線が東北地方まで北上する。西～北日本の積雪の多い所では20日にかけて、なだれに注意。
- ② 1項②のシアーラインは19日朝にかけて西進、その後500hPa5580m付近のトラフに対応し、シアーライン上の東海道沖で低気圧が発生し、19日夜には伊豆諸島付近に進む。また、西日本太平洋側～南西諸島付近は20日にかけて気圧の谷となる。さらに、19日夜には、サハリン付近～日本海に地上のシアーラインがのび、20日に北日本を通過する。シアーライン及び低気圧、気圧の谷の周辺では2項①の高気圧縁辺から流入する下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる。全国的に20日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項②の低気圧の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹き、波が高くなる所がある。東日本では20日にかけて、高波に注意。
- ④ 2項②の低気圧は、500hPaトラフに対応し、20～21日は日本の東を発達しながら北東進。21日は日本付近は西高東低の気圧配置となる。北日本には850hPa-6℃以下の寒気が流入し、東～北日本の日本海側山沿いを中心に降雪となる所がある。また、上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。東日本では21日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。